ＪＲ信濃川発電所に係る河川環境検討会（第３回）

議事概要

東日本旅客鉄道株式会社

議事概要

開 催 日　：　2025年12月15日
開催場所　：　道の駅クロステン十日町
出 席 者　：　淺枝委員長、安達委員、池田委員、北沢委員、桑原委員、佐々木委員
佐藤委員、鈴木委員、田村委員、中村（圭）委員【Web参加】
中村（文）委員、陸　委員【Web参加】、岩本委員

1. 設立趣旨及び規約、委員紹介時の委員からのご意見

意見等なし

2. 委員からのご意見

1. JR信濃川発電所に係る河川環境検討会（第2回）議事概要

意見等なし

2. 東日本旅客鉄道株式会社における河川環境に係る取組み

鈴　木　委　員：今年は、サケの遡上が非常に少ない状況であることを共有したい。これは信濃川のみの問題ではなく、全国的な問題であると認識している。
事　務　局　：全国的にサケの遡上が非常に少ないことは認識しており、これは様々な要因があると考える。JR東日本としては魚道のサケの遡上環境を維持していくことが重要と考えている。

議事概要

2. 委員からのご意見

2. 東日本旅客鉄道株式会社における河川環境に係る取組み

佐 々 木 委員：2025年度の魚類遡上状況調査期間は6月6日～7月5日の27日間とのことであるが、昨年度の調査期間は37日間であった。調査期間がなぜ異なるか。また、経年変化を考察するにあたり、調査期間の違いがどのように影響すると認識しているのか。

事　務　局　：調査の開始日はアユの遡上行動が活発になる積算水温を満たした日を調査開始日としているため、年毎に調査期間は異なる。また、調査期間の違いは、魚類の個体数に多少の影響があると考えているが、魚種数についてはあまり影響がないとの認識である。

佐 藤 委 員　：県として信濃川水系にてアユの調査を実施しているが、今年はアユの状況が思わしくなく、アユの稚魚放流時の気候等が影響したのではと懸念している。魚類遡上状況調査時の河川水温等のデータは、大変貴重なものなので共有した方が良い。

委　員　長　：魚野川の河川水温の日較差が大きい要因は何か。

桑 原 委 員　：魚野川の河川水温の日較差の要因は、越後湯沢付近の山の積雪による融雪水の影響が考えられる。ただ、魚野川の水温の日較差が毎年大きいかは、不明である。その他にも河道断面が小さい箇所は、気温による影響が大きいことも日較差を大きくする一つの要因と考える。

中村（圭）委員：アユの生息適性水温は、25℃程度であり30℃以上になると生息困難となるので、水温の28℃が一つの目安となる。報告資料からは、水温が28℃を超えている日数が多いことに懸念がある。ただ、魚野川の水温が低いこと及び魚野川合流地点より下流も高水温になりにくいことより、アユは魚野川又は魚野川合流地点より下流に移動しているのではないか。アユが夏場にどこにいるのかを把握することは重要なので、一度、専門家に相談しても良いのでは。

議事概要

2. 委員からのご意見

2. 東日本旅客鉄道株式会社における河川環境に係る取組み

委　員　長　　：ウグイは全国的に減少している印象がある。
鈴　木　委　員　：ウグイは、減少している。漁業協同組合ではウグイを放流しており、昔の信濃川の姿を再現できるよう努めている。次年度以降の調査結果でウグイが増加している結果が聞ければありがたい。
中村（文）委員：2021年以降のアユ以外の魚種の個体数が1,000個体を超えているが、調査手法は、一緒なのか。また、アユ以外の魚種の個体数が増加している要因で考えられることは。
事　務　局　　：調査期間は異なるが、調査手法は毎年統一している。増加要因の一つとしては、近年せせらぎ魚道で実施している清掃などの維持管理が有効に作用していると考えている。

3. 宮中取水ダムからの夏季の河川環境に配慮した放流方法の検討

鈴　木　委　員：河川水温に配慮した増放流は、実施しても河川水温に影響がないように見える。ただし、放流時の気象条件等の影響もあるので、継続してデータを蓄積し、放流量と河川水温の関係性が明らかになればと考える。
事　務　局　　：今後、数年間はデータを蓄積していく。また、必要により専門家の意見も聞きながら実施していく。
委　員　長　　：藻類は弱ってくると過酸化水素を生成するので、過酸化水素を計測する手法を活用する方法等より、藻類の掃流効果の検証に効果的な調査手法を検討した方が良い。

議事概要

2. 委員からのご意見

3. 宮中取水ダムからの夏季の河川環境に配慮した放流方法の検討

中村（圭）委員：人工出水の効果や影響を把握するための実験は、規模、期間、流速、回数等の多様なパラメーターが関連するため、因果関係を確認することは非常に難しい。調査項目は、工学的に比較が可能な検証方法を見据えたうえで、項目を絞って実施したほうが良い。

委　員　長　：藻類の掃流効果の検証は、せせらぎ魚道で実施するのも良い。

陸　委　員　：河川水温に配慮した放流は、24時間放流する必要がなく、例えば12時間程度の放流でも良いと考える。

4. その他

意見等なし